

ドクターヘリの全国配備へ向け新法制定を求める件

近年、医師の偏在や不足が重大化しつつある中で、患者がどこにいても短時間内に治療や搬送を行うドクターヘリの配備の必要性は高まっており、1分1秒を争う救急医療の「切り札」として全国配備が強く望まれています。

日本の現状はドクターヘリが広く普及している欧米諸国と比べると大きな格差があります。例えば、1970年（昭和45年）に世界に先駆けてドクターヘリを導入したドイツでは、その後の20年間で交通事故による死亡者数を約3分の1にまで劇的に減少させています。また、山岳地帯が多いスイスでは、国内どこへでも概ね15分以内に医師を乗せたヘリを現場に派遣して、治療行為を開始できる体制をとっています。

しかし、日本では平成13年度からドクターヘリ導入促進事業がスタートしましたが、現在、岡山、静岡（2機）、千葉、愛知、福岡、神奈川、和歌山、北海道、長野の9道県10機の運行にとどまっています。導入が進まない要因の一つは、運営主体となる都道府県や病院の過重な財政負担であることが指摘されています。

よって、国会及び政府におかれては、救急救命に大きな効果を上げるドクターヘリの全国配備を推進するために、下記のとおり財政基盤の確立を含めて体制整備に必要な措置を図る新法を制定されるよう強く求めます。

記

- 1 国と都道府県の責務を明記すること
- 2 国が整備に必要な経費を補助すること
- 3 移送費として、健康保険や労働災害補償保険などの形で、運行費を支給し、財政安定化を図ること

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成18年10月5日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
厚生労働大臣
国土交通大臣 様

仙台市議会議長 柳橋邦彦